

國土防衛と我等の覺悟

田 中 義 道

中學を卒業するや唯一すじに佛專への道を進んで來たのが、つい此の間にしか思へないのに早や何時の間にか一學期も終り二學期が始まつた。學校生活の激變から落着いて物を考へる餘裕もなかつた一學期だつた。忙しいと言ふより、寧ろあはただしいと言ふのが適當であつたかも知れない。

中學校は中學校として夫々楽しい事もあり、つらい事も多かつた。そして専門學校としても又面白い所もあり苦しい事もあつた。而し何と言つても中學校から専門學校への、學校生活の變化といふものは、實に大なるものがあつた様に思はれる。加ふるに時局の推移といふものが更にその懸隔を大にしたのであらう。要するに反省の暇のなかつた一學期だつた。而し我々に取つてまだそれ以上にあはただしいものがあつた。それは、變轉極まりなき世界情勢である。

山本元帥の壯烈なる御戦死、アツツ島勇士の玉碎、南島島・北千島への敵機來襲、イタリーの無條件降伏、ムツソリーニの再起、そして又警戒警報も數回發令せられた。我々がこゝに一考を要するも

のは、我々が果してそれ等の時局に應じて來たかの問題である。

私は敢て一言にして言ひたい「時局に對應せり」と。

我々は數回の勤勞奉仕に出動した。其處に於て我々は眞に時局に目覺めた學生といふものを見出した。眞摯なるその姿は實に敬服に値するものがあつた。確か入學後僅かだつたらう。我々は、かの憎みてもあまりある鬼畜の敵機から市民を護るべく數回に渡り市内の貯水槽掘りに出動したのである。粘土運びに土叩きに我等は敢然と挑んだ。鶴嘴を揮ふ逞しい腕に玉の汗が光り、土にまみれた眞黒な背にも遠慮なく初夏の陽が照りつける。而し我等の士氣は益々軒昂誰一人として弱音を吐く者は無かつた。國土防衛の一助として、米英の冒爆から國土を護る爲だと思へば、おのづから全身より迸るが如き精神力が躍如として出づるを覺えたのである。

或ひは夏休み前後には數日を費して校内の待避壕掘りを實施した。試験の疲勞極度に達した後、或ひは休暇明けの全身だるんだ後の肉體勞働は、精神力で之を補ふより仕方がなかつた。運動場の北端に、又僅々二時間で仕上げた圖書館前の待避壕に、それこそ全力

を振つた。かくして我等の常にモットーとして來た「寡黙而實行」は見る／＼實を結んだ。今や土の色も新しい待避壕が、各所に敵機來らば來るとばかり待ち受けてゐる。

又毎月の大詔奉戴日には、再ましい行事もあつた。かの忘れられないう行軍競争の如きは實に時局下の學徒として、面目躍如たるものがあつた。一級友のク斃れて後已むくの尊い身を以ての實踐は我々をして振ひ起たさずには居かなかつた。之れ總べて時局下の學徒としての本分を知り、之に對應せんが爲に努力せるものなる事を確信するのである。

一たび翻つて之を過去十數年の學生に比するならば甚しき差異のあつた事と想像するに難くはないのである。この差異こそ我々が中學校から専門學校へと進んで來た半ヶ年の成果として誇りたいものである。

而るに之を以て事足れりとなす事の危険は火を見るよりも明らかである。常に我々は、遠きに理想を持ちて、それに向つてまっしぐらに突き進んでゐるのである。時局下の學徒としての理想は、はるか彼方である。我々の今後の精進は極めて重大である。

今やク學園を斷じて護れくと學徒動員態勢によつて今度「學校防空指針」なるものが出來、明確に全國一様に學校防空として整備され、民防空との緊密なる連鎖の下に國土防衛の爲に積極的に動員さ

れ、學校を護り國土を護る大きな使命を負ふに至つたのである。國土防衛こそ今後の學徒の精進する道であり、時局下學徒としての理想である。

ク防空に銃後なしくと刻々苛烈化する決戦下の今、國土防衛の一翼を擔つて率先挺身ク防空應召の念願に燃える我々學徒は愈々總蹶起以て大御心に副ひ奉る時が來た。

大東亞戦争は歐洲戦局と共に愈々苛烈を極め、大本營から屬される戰況發表こそ、我々皇土を護る一億國民の心の警戒警報發令である。

我々はこの時局の進展に伴ひ必勝の信念を堅持して、防空を離れて生活なしの觀念を更に／＼強化して、神州の天空は斷じて護るの決意を新たにし、過去半ヶ年の成果を更に助長して、決戦下の學徒の本分に邁進せん。